

医療情報倫理ワークショップ

情報倫理学の扱う領域はコンピュータの分野に限定されるものではない。生命倫理学の領域でも、いわゆるインフォームドコンセントの問題がまさに患者と医療者側との“情報”共有の問題であることをはじめ、昨今話題となっているヒトゲノム解析研究における遺伝情報の管理、または電子カルテを代表とするような医療情報システムにおける患者のプライバシー保護の問題も、情報倫理学にとっての大きな学問的課題である。平成 12 年度は、千葉大学拠点と協力しつつ京大拠点を中心に、生命倫理学との交差領域となる「医療情報学」における情報倫理をひとつの大きな柱として取り組みを進めてきた。その具体的な取り組みとして、2回のプレセッションを含む「医療情報倫理ワークショップ」を企画し、下記のような3つのセッションを、医療系学会・研究会との協力を得て共同で開催した。

(1) 「医療情報倫理ワークショップ」第1回プレ・セッション

日本医学哲学倫理学会国内学術交流委員会・「情報倫理の構築」プロジェクト共同企画

第2回生命倫理コロキウム「第2コロキウム：医療情報と倫理」

2001年10月19日（金） 午後1時～午後5時 芝浦工業大学本館第2会議室

司会：越智貢（広島大学文学研究科）

指定発表者：石川澄（広島大学医療情報部）医療情報学の立場から

：石井トク（岩手県立大学看護学部）看護学の立場から

：板井孝彦郎（京都大学文学研究科）倫理学の立場から

(2) 「医療情報倫理ワークショップ」第2回プレ・セッション

日本病院管理学会学術総会指定研究会・「情報倫理の構築」プロジェクト共同企画

「医療情報の活用と病院における保護管理」

2001年10月30日（火） 午後6時15分～午後8時 東京・大田区民ホール・アプリコ

指定発表者：水谷雅彦（京都大学文学研究科）

：山内一史（岩手県立大学看護学部）

：蔵田伸雄（北海道大学文学研究科）

：奥野満里子（九州大学文学研究科）

(3) 第21回医療情報学連合大会「医療情報倫理ワークショップ」

「患者情報の共有化とプライバシー保護基準 —2005年の地域医療情報ネットワーク実現に向けて—」

日本医療情報学会「医療情報のプライバシー保護に関する研究会」

日本学術振興会「情報倫理の構築」プロジェクト共同企画

2001年11月26日（月） 午後6時～午後8時

東京ファッションタウンビル（東京国際貿易センター）C会場（908号）

指定発表者：石川澄（広島大学医療情報部）

：蔵田伸雄（北海道大学文学研究科）

: 板井孝孝郎 (京都大学文学研究科)

これらのワークショップは、患者のプライバシーをはじめとする患者の権利を守るための情報セキュリティや個人情報保護ポリシーと、それに基づく地域に共通した運用ルールの確立の必要があるとの目的意識を共有する、上記3つの学会・研究会との連携のもとで開催された。なかでも日本医療情報学会は、1992年からこの目的の研究会を発足させ、社会の動向調査に基づいて医療に関する個人情報の運用上の課題を中間報告にまとめ医学・医療界に啓発してきた経緯があり、また一方で、日本学術振興会「情報倫理の構築 (FINE: Foundations of Information Ethics)」は、1998年から未来開拓学術研究推進事業の研究プロジェクトとして、情報化社会における倫理問題を総合的に研究するとともに、情報倫理教育のあり方を理論的、方法的に考察を行い、2000年からは、医療における情報化の趨勢に対応した情報倫理学的研究が喫緊の課題であることに鑑み、生命、医療倫理と情報倫理との交差領域をターゲットとする研究に取り組んできていた。こうした経過を踏まえ、本ワークショップでは、患者が医療従事者に提供した情報（生活歴、既往歴、検査歴など）と、それに基づき医療従事者が作成した情報（診断、所見を含む診療録、看護記録、処方箋、紹介状など）の取り扱いにおいて、どのようなデータセットが「患者のプライバシー」か、それらを地域医療に流通させる際に、誰が、どう決めるのか、蓄積されたデータの管理はどのように行うのか、さらにデータの2次利用（学術・公益利用）についてはどのような基準で許可するのかについて、医療の受益者、提供者および情報管理者の立場から、フロアも交えた活発な討論が行われた。その成果を「地域連携医療と社会貢献のための情報活用基準」としてまとめることを目指し、現在もプロジェクトの課題として取り組みを継続している。

(以上、文責：宮崎医科大学医学部講師 板井孝孝郎)